

# 予報第 2 号(6 月)

農推第 1413 号  
平成 28 年 6 月 1 日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について次のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予報第 2 号(6 月)

農作物名	病害虫名	予想発生量
水稻	いもち病	□~○
	縞葉枯病	□
	イネミズゾウムシ	□
	ニカメイガ	△
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)	□
	イネアオムシ(フタオビコヤガ)	□~△
ぶどう(デラウエア)	べと病	□~○
	灰色かび病	□

	フタテンヒメヨコバイ	□
みかん	黒点病	□~○
	そうか病	□
	ミカンハダニ	□
もも	せん孔細菌病	□~○
いちじく	アザミウマ類	○
果樹類	果樹カメムシ類	□
なす	灰色かび病	△
	すすかび病	□
	うどんこ病	□~○
	ミナミキイロアザミウマ	□~△
	ミカンキイロアザミウマ	□
トマト	灰色かび病	□
	葉かび病・すすかび病	□~△
非結球あぶらな科葉菜類(大阪しろな、こまつな等)	コナガ類	□
きく	黒斑病・褐斑病	□
	白さび病	□
	アザミウマ類	○
野菜類 花き類	アブラムシ類・ウイルス病	□~△
	シロイチモジヨトウ	□
	ハモグリバエ類	□
	オオタバコガ	□~○
	コナジラミ類	□~△
▲:少ない △:やや少ない □:並 ○:やや多い ●:多い		

5月気象予報(気象庁5月26日発表。1ヶ月予報)

	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温(確率)	20	30	50
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

## A 水稻

### 【いもち病】

[予報内容] 発生量: 並～やや多い

[予報の根拠]

- (1)昨年度は葉いもち及び、穂いもちの発生とも平年よりやや多かった。
- (2)向こう1ヶ月の降水量は多く、日照時間はやや短いと予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)育苗箱において発生した場合、その箱の苗は本田に移植しない。
- (2)田植後の余り苗を水田に放置しない。
- (3)発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。
- (4)密植をしない。

[メモ]

- (1)日照不足、多雨で発病が多くなる。
  - (2)近隣府県においてQoI剤耐性菌の発生が報告されている。
- QoI剤の使用は1作1回にとどめる。

QoI剤成分例: アゾキシストロビン(アミスターエイト)、メミノストロビン(イモチエース粒剤、オリブライト 250G)、オリサストロビン(嵐箱粒剤)等

### 【縞葉枯病】(ヒメビウンカ)

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

- (1)本年は越冬虫の捕獲虫数は少なかった。
- (2)近年はウイルス保毒虫率が高い状況が続いている。
- (3)5月の予察灯へのヒメビウンカの飛来は平年同様、見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)前年度発生があった地域あるいはその周辺地域では、田植前に箱施用剤を処理する。

[メモ]

- (1)ヒメビウンカは縞葉枯病を媒介する。
- (2)近年、西日本で増加傾向にある。

### 【イネミズゾウムシ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)昨年度の発生は平年並であった。
- (2)5月の予察灯への飛来は、平年と同様見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)常発地では、田植前に箱施用剤を処理する。さらに発生が多いほ場は、移植後の防除を行う。

[メモ]

- (1)山間の水田は、越冬場所に恵まれて多発生しやすい。
- (2)気温が高くなると、越冬地周辺から水田に移動する。

### 【ニカメイガ】(第1世代幼虫)

[予報内容] 発生量:やや少ない

[予報の根拠]

- (1)昨年度のほ場での発生は平年同様ほとんど見られなかった。
- (2)5月の予察灯、フェロモントラップへの飛来は見られなかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)箱施用剤を処理しない場合は、7月上中旬に防除を行う。

### 【ジャンボタニシ】(スクミリンゴガイ)

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)昨年度のほ場での発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)水深4cm以下の浅水管理とする。
- (2)桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。

[メモ]

(1)田植後20日以内の苗が食害されるので、この時期の防除を徹底する。

### 【イネアオムシ】(フタオビコヤガ)

[予報内容] 発生量:並~やや少ない

[予報の根拠]

- (1)昨年度の発生はやや少なかった。
- (2)近年、府内中山間部を中心に局地的に発生が多い。

**[防除上考慮すべき事項]**

(1)発生初期の防除を徹底する。

**[メモ]**

(1)この虫の生育適温は25～27度。

(2)多肥栽培は発生を助長する。

(3)フィプロニルを含む箱施用剤の効果は低い。

**B 果樹**

**1 ぶどう(デラウェア)**

**【べと病】**

[予報内容] 発生量:並～やや多い

**[予報の根拠]**

(1)5月の巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。

(2)向こう1ヶ月の天候は、平年より降水量が多いと予報されている。

**[防除上考慮すべき事項]**

(1)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

**[メモ]**

(1)5月～10月に降雨が続くと発生が多くなる。

**【灰色かび病】**

[予報内容] 発生量:並

**[予報の根拠]**

(1)5月の巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。

**[防除上考慮すべき事項]**

(1)ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。

**【フタテンヒメヨコバイ】**

[予報内容] 発生量:並

**[予報の根拠]**

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

**2 みかん**

**【黒点病】**

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

- (1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は確認されなかった。
- (2)向こう1ヶ月の天候は、平年より降水量が多く、気温が高い見込みと予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)枯枝が多く残っているところでは伝染源となるので、速やかに枯枝を除去する。

【そうか病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)5月の巡回調査では、平年と同様に発生は確認されなかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)伝染源となる越冬病斑は除去する。

【ミカンハダニ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

- (1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)同一系統薬剤の連用を避ける。

3 もも

【せん孔細菌病】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

- (1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。
- (2)向こう1ヶ月の天候は、平年より降水量が多い見込みと予報されている。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発病を認めたら、被害葉、果実を除去するとともに、初期防除を徹底する。
- (2)風当たりの強い園では、防風ネット等を設置する。

[メモ]

- (1)強風、降雨により発生が多くなる。

#### 4 いちじく

##### 【アザミウマ類】

[予報内容] 発生量: やや多い

[予報の根拠]

(1) 青色粘着トラップによる誘殺虫数は平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 発生を認めたら、初期防除を徹底する。

(2) 同一系統薬剤の連用を避ける。

#### 5 果樹全般

##### 【果樹カメムシ類】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 園地により飛来量は大きく異なる可能性があるので、園内を見回り発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

#### C 野菜

##### 1 なす

##### 【灰色かび病】

[予報内容] 発生量: やや少ない

[予報の根拠]

(1) 5月のなすの巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう整枝を工夫する。

(2) 果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(3) 同一系統薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1) 灰色かび病は、低温多湿条件下で発生が多くなる。

##### 【すすかび病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1)5月のなすの巡回調査では、発生は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)病葉は早めに摘除し、ハウス外に持ち出し処分する。

(2)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には、葉の裏にもかかるようにていねいに薬剤散布を行う。

(3)QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、シグナムWDG)、SDHI 剤(アフェットフロアブル、カンタスドライフロアブル、シグナムWDG)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1)すすかび病は多湿条件下や草勢が低下したときに発生が多くなる。

### 【うどんこ病】

[予報内容] 発生量:並~やや多い

[予報の根拠]

(1)5月のなすの巡回調査では、泉州地域の一部ほ場で、発生は平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)こまめに摘葉、摘芯を行い、過繁茂にならないようにする。

(2)発生初期の防除を徹底する。

(3)草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。

(4)QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル)、SDHI 剤(アフェットフロアブル)は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。

[メモ]

(1)うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。

### 【ミナミキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量:並~やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月のなすの巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)果実や葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。

(2)薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

[メモ]



(1) 同一系統薬剤として、ネオニコチイド系(スタークル顆粒水溶剤・アルバリン顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤など)、マクロライド系(アフーム乳剤、アグリメック)、スピノシン系(スピノエース顆粒水和剤、ディアナ SC など)、その他(モベントフロアブル)などがある。

#### 【ミカンキイロアザミウマ】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) 5月の水なすの巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 収穫後の残さは、他作物等への発生源となるので、速やかにほ場から持ち出し処分する。

[メモ]

(1) ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなどは、作物を加害するだけでなくウイルス病(TSWV)を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。

## 2 トマト

#### 【灰色かび病】

[予報内容] 発生量: 並

[予報の根拠]

(1) ハウストマトの5月の巡回調査では、発生は平年並だった。

[防除上考慮すべき事項]

(1) 多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう整枝を工夫する。

(2) 果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。

(3) 同一系統薬剤の連用を避け、薬剤のローテーション散布を行う。

[メモ]

(1) 灰色かび病は、低温多湿条件下で発生が多くなる。

#### 【葉かび病・すすかび病】

[予報内容] 発生量: 並～やや少ない

[予報の根拠]

(1) ハウストマトの5月の巡回調査では、発生は平年より並からやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。
- (2)下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。
- (3)初期防除が重要となるので、発病を認めた場合には直ちに防除を行う。
- (4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 3 非結球あぶらな科葉菜類(大阪しろな、こまつな等)

#### 【コナガ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップ、予察灯での誘殺虫数は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期に防除を行う。

#### D 花き

##### 1 きく

#### 【黒斑病・褐斑病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。

(2)向こう1ヶ月の降水量は、平年よりやや多いと予測されている。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。

[メモ]

(1)降雨が多いと発生が多い。

#### 【白さび病】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年と同様ほとんど見られなかった。

#### 【アザミウマ類】

[予報内容] 発生量:やや多い

[予報の根拠]

(1)5月のきくの巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。

## E 野菜・花き類

### 【アブラムシ類】【ウイルス病】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。

(2)黄色水盤での誘殺数は、平年よりやや少なかった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)ウイルス病を媒介するアブラムシ類は、少発生時の防除を徹底する。

(2)施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。

(3)ほ場周辺の除草に努める。

(4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(5)ウイルス病に感染していない無病苗を確保する。

(6)ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。

[メモ]

(1)アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。

### 【シロイチモジヨトウ】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップでの5月の誘殺虫数は、平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

(1)発生初期(若齢幼虫期)の防除を徹底する。

(2)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

### 【ハモグリバエ類】

[予報内容] 発生量:並

[予報の根拠]

(1)5月の巡回調査では、発生は平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)被害葉、残さはほ場から持ち出し処分する。
- (2)しゅんぎくや大阪しろな等の軟弱野菜では、収穫後に地表面をビニール被覆し、太陽熱により土中の蛹を殺すことで、次作の被害を軽減できる(4～10月の間可能)。

### 【オオタバコガ】

[予報内容] 発生量:並～やや多い

[予報の根拠]

(1)フェロモントラップでの5月の誘殺虫数は、平年並からやや多かった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)被害のあった果実や新芽は早急に処分し、周辺の幼虫を探して捕殺する。
- (2)施設では、開口部を寒冷紗等(5mm目合以下)で被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (3)黄色灯を終夜点灯すれば、成虫の行動や産卵を抑制し、被害を軽減できる。

### 【コナジラミ類】

[予報内容] 発生量:並～やや少ない

[予報の根拠]

(1)5月のなす巡回調査ではハウス、露地ともに発生は平年よりやや少なかった。

(2)トマトハウスの黄色粘着トラップの誘殺虫数は、平年並であった。

[防除上考慮すべき事項]

- (1)発生初期の防除に努める。
- (2)被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。
- (3)施設では、開口部を寒冷しゃで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- (4)同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (5)ほ場周辺の除草にも努める。

[メモ]

(1)タバココナジラミは、作物を加害するだけでなくウイルス病(TYLCV)を媒介する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>  
防除指針を掲載しています。

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/maillservice/maillservicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>  
年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室推進グループ

おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。  
(受信に要する通信費は自己負担です)

●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)